

「せんそうは、こわい」

古堅南小学校四年 佐久川 若葉

日本は、せんそうがおきたんだ。わたしは、せんそうは、どうしておきたのかとつてもふしぎ。せんそうがおきなれば、せんそうでなくなつた人は、今のわたしたちみたいになく、幸せにくらしていたと思う。けれどせんそうは、おきてしまった。

このことは、本を読んで初めてわかつた。アメリカが、空や海からいろんな所からバクダンを落としてきたんだそう。そのときは、みんなびっくりしたと思う。今は、バクダンとか落ちてこないからよかつたけど、もし落ちてきたら、わたしはなくかもしれません。

せんそうは、生きのこる人や死んでしまふ人もいて、お父さんやお母さんとはぐれたり一人ぼっちになつたりしてかわいそうと思ひました。

わたしは今、お母さん、お父さん、お姉ちゃん、弟で幸せにくらしている。友だちもいるし、いともいってとっても幸せ。でも、せんそうがおきると、それをぜんぶうしなってしまう。わたしは、そんなのいやです。

ごはんも、毎日きゅう食やお母さんが作ってくれるりょう理を食べているけど、せんそうの時は、かえるやかたつむり、そんな物しか食べられないのでかわいそうです。

ほかに、家や町、虫や動物もすくなくなっ
ていきます。

わたしは、せんそうは、とってもこわい
思いました。

せんそうは、けんかから生まれてくると思
います。なので、これからは、けんかをしな
いようにします。

わたしの命は、自分で守ります。これから
も、世界が平和でつづくといいです。